

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol.15 ドイツ語教室に通い始めた。

筆者は「ご趣味は？」と聞かれたら、「語学ですかねえ」と答えるかなぐらいに、語学オタクっぽいところがある。1つの言語を「極める」ことに興味はないが（性格的にできないもん）、いろんな言語に手を出すのが好き。

で、ドイツ語はというと、なんとなくタラタラやっていた。教材は、NHKの語学番組テキスト(6カ月分が1冊になったテキストとCD。筆者はNHKの語学番組ファンなのだ)。でも、気が向いたときにやる感じなので、ちっとも身につかない。

さすがに、ちょいフラストレーションを感じ、「独検」を受けてみることにした。筆者の場合、とりあえず「試験、受ける！」とそこいらじゅうに公言して、「落ちたら恥ずかしいぞ」状態をつくっておくとよらしい(目標があると一生懸命やるタイプ)。

全くの初心者とはいえないものの、受かるかしらん？ と思いつつ、とりあえず「6カ月で検定4級と3級合格」と決め、本屋で「4週間で合格！」みたいなタイトルの問題集を買ってきて、必死こいてやってみた。

久々に試験勉強して、「ああ～、試験日まであと1週間！」みたいな危機感を感じた。

そしたら、なんと受かった！単純にうれしい。高校生や大学生たちに交じっての試験というのはなかなか良いものだね、なんて思ったりして。

しかし、試験はしょせん試験、会話は別物である。ある程度、文法は頭で理解できても、それぞれ「お話にならない」。やっぱ語学は単語だろう、単語！ と思い、単語集も買ってみた。「犬がder Hundってのは知ってるぞ。しっぽはder Schwanzか」みたいなレベル。で、例文「Der Hund hat einen langen Schwanz.」(その犬のしっぽは長い)を覚えてみた。次は実践あるのみ！

が、冷静に考えた。「……私の人生でこのセンテンスを使うことってあるんかしらん？」。結構、絶望的？

ところが、機会は訪れた！ その年の夏、スイスで出会った小さな女の子。シャイで人見知りと聞いたが、筆者に懐く。かわい～！ 大好きな猫の縫いぐるみをずっと抱えてる。ネコはdie Katzeだ……。あぁ！！こ、この場面じゃん？ あの例文の使いどころはっ！

で、「Deine Katze hat einen langen Schwanz. (あなたのネコのしっぽは長いね)」。

そしたら、返ってきましたよ。ニコッと満面のスマイルが！

おお、通じた！ 感動！！

てな感じで、もう、はまってしまった。「もっとしゃべれるようになりたい！」。

さすがに独学に限界を感じ、とうとう語学教室に通い始める。アットホームな3人のクラスで、Meier先生はニコニコしながら、しかし、容赦なくドイツ語だけで話してくる。「ううう、分かったふりしてもこの人数じゃ、ばれちゃうよ。。。」

が、学生に戻った気分で楽しい。トーマス・マン？ はいはい、高校時代に読みました。ベルリンの壁崩壊？ 11月だったんですね、みたいなトピックも出てきて、ワクワク。で、素晴らしいことに、4カ月でリスニング力が飛躍的にアップした！

肝心の会話は？ 何しろドイツ語は文法が「超」難解。過去形一つ作るのもままならない。で、分かったのだ！

「去年」や「昨日」という単語の重要性を！ 「昨日」と話し始めれば、間違っても現在形を使っても、先生が直してくれる。教室って素晴らしい、Danke (ありがとう)！！

というわけで、筆者がドイツ語で伝えることの喜びを感じる日もそう遠くない(はず？ ちなみに独検2級も合格しました～)。



©Emi